

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成25年8月8日(2013.8.8)

【公開番号】特開2011-237360(P2011-237360A)

【公開日】平成23年11月24日(2011.11.24)

【年通号数】公開・登録公報2011-047

【出願番号】特願2010-110875(P2010-110875)

【国際特許分類】

G 01 S 17/46 (2006.01)

G 01 S 1/70 (2006.01)

G 06 F 3/041 (2006.01)

【F I】

G 01 S 17/46

G 01 S 1/70

G 06 F 3/041 320G

【手続補正書】

【提出日】平成25年6月26日(2013.6.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0111

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0111】

このように制御部60は、光源部LS11が発光する期間である第1の発光期間における受光部RUでの検出受光量Gaと、光源部LS12が発光する期間である第2の発光期間における受光部RUでの検出受光量Gbとが等しくなるように、光源部LS11、LS12の発光制御を行う。これにより検出部50は、照射ユニットEU1に対する対象物OBの方向DDB1を求める。また光源部LS21が発光する期間である第3の発光期間における受光部RUでの検出受光量Gaと、光源部LS22が発光する期間である第4の発光期間における受光部RUでの検出受光量Gbとが等しくなるように、光源部LS21、LS22の発光制御を行う。これにより検出部50は、照射ユニットEU2に対する対象物OBの方向DDB2を求める。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0149

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0149】

そして駆動信号SDRがHレベルである第1の発光期間TAでは、可変抵抗RAを介して発光素子LEDAに電流が流れ、発光素子LEDAが発光する。これにより図2(A)に示すような照射光強度分布LID1が形成される。一方、駆動信号SDRがLレベルである第2の発光期間TBでは、可変抵抗RBを介して発光素子LED Bに電流が流れ、発光素子LED Bが発光する。これにより図2(B)に示すような照射光強度分布LID2が形成される。従って、図7(A)で説明したように、光源部LS1、LS2を交互に点灯させて、図2(A)、図2(B)の照射光強度分布LID1、LID2を、各々、第1、第2の発光期間TA、TBにおいて形成できるようになる。即ち制御部60は、駆動信号SDRを用いて光源部LS1と光源部LS2を交互に発光させて、照射強度分布LID1と照射強度分布LID2を交互に形成する制御を行う。